

PRESTIGEINTERNATIONAL

INTERIM FINANCIAL REPORT

2024 | 2024年4月1日～2024年9月30日



さらなる 価値創出への 挑戦

代表取締役
社長執行役員グループCEO

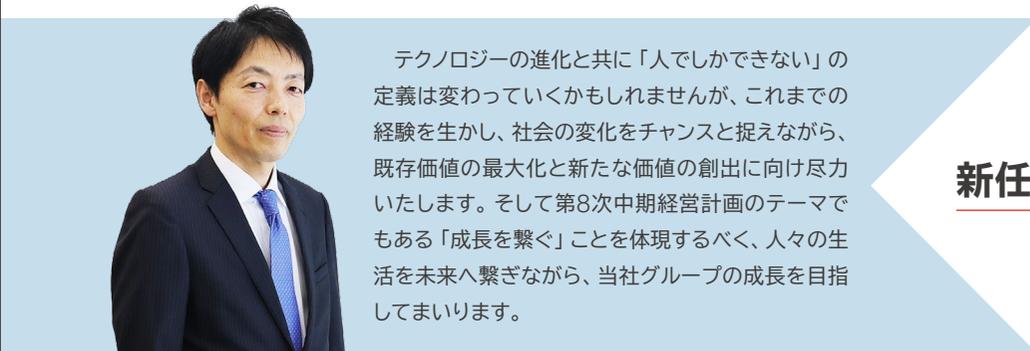
玉上 進一

ご挨拶

株主・投資家の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。2025年3月期を迎え、当社グループはさらなる挑戦に向けて力強く歩み始めます。前中期経営計画期間3年間の実績に甘んじることなく、変化のスピードが一層加速するビジネス環境の中で、新たな価値を生み出すべく行動していく所存です。

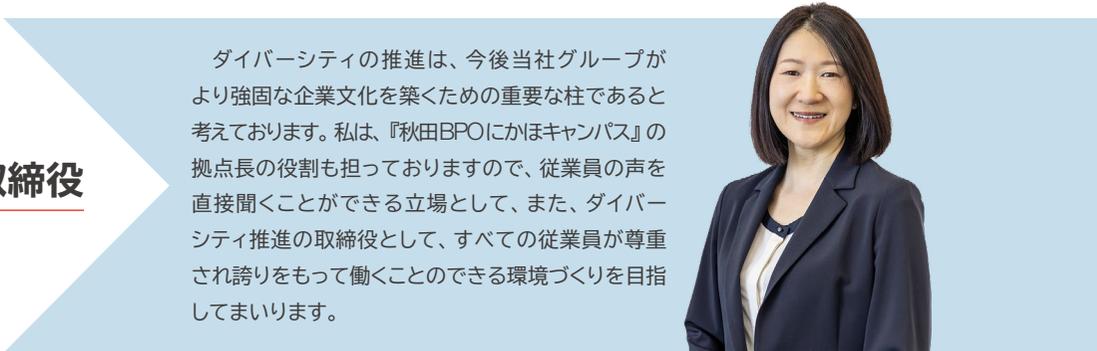
まず、組織改革に取り組んでおります。新たな価値の創出には、多様な人材の『確保』と『活用』が必要です。実現に向け、経営層が率先して意識改革を遂行し、柔軟で迅速な意思決定が可能な組織風土を醸成します。また、第8次中期経営計画における経営戦略の要である『機動的な拠点展開』を中心とした雇用促進はもちろんのこと、従業員への投資と育成プログラムの充実に努めます。AIやデジタル技術の進展に対応したスキル強化だけでなく、従業員が自らのキャリアを切り開けるような機会と支援を提供することで、一人ひとりが力を発揮し、成長を実感できる環境を整えることで、新たな価値の創出を目指します。

今後も、株主の皆様をはじめとするすべてのステークホルダーのご期待に応えるため、力強く前進してまいります。引き続きご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



テクノロジーの進化と共に「人ではできない」の定義は変わっていくかもしれませんが、これまでの経験を生かし、社会の変化をチャンスと捉えながら、既存価値の最大化と新たな価値の創出に向け尽力いたします。そして第8次中期経営計画のテーマでもある「成長を繋ぐ」ことを体現するべく、人々の生活を未来へ繋ぎながら、当社グループの成長を目指してまいります。

新任取締役



ダイバーシティの推進は、今後当社グループがより強固な企業文化を築くための重要な柱であると考えております。私は、『秋田BPOにかほキャンパス』の拠点長の役割も担っておりますので、従業員の声を直接聞くことができる立場として、また、ダイバーシティ推進の取締役として、すべての従業員が尊重され誇りをもって働くことのできる環境づくりを目指してまいります。

中村 干城 取締役常務執行役員

選任理由

入社以来25年以上にわたりグローバル事業を中心に新サービスの開発等を行い、過去においては当社の取締役、現在においては子会社の取締役として経営に携わってきました。加えて、人格、見識とも優れており、当社グループにおける経営戦略の策定・推進に適切な人材であると判断したため、新たに取締役に選任しております。

取締役 佐藤 春奈

選任理由

これまで当社グループが推進してきた女性活躍推進プロジェクトである「WEPRO」を、女性活躍推進のみにとどまらないダイバーシティ推進プロジェクトとして発展させていくためのリーダーとして適任と判断したことから、新たに取締役に選任しております。

当中間連結会計期間 業績ハイライト

売上高につきましては、主力のオートモーティブ事業の成長を軸に、プロパティ事業、グローバル事業、金融保証事業が堅調に推移し、30,770百万円（前年同期比7.0%増）となりました。

営業利益につきましては、一時的要因であったワクチン関連業務の終了により計画の範囲内での減益となり、3,729百万円（前年同期比3.3%減）となりました。経常利益に関しましては、為替差損（9百万円）及び持分法による投資利益（66百万円）により3,961百万円（前年同期比2.7%減）となりました。親会社株主に帰属する中間純利益は、2,231百万円（前年同期比5.3%減）となりました。

売上高(百万円)



営業利益(百万円)



親会社株主に帰属する中間(当期)純利益(百万円)



1株当たり配当金(円)



セグメント概況

オートモーティブ 自動車関連サービス

売上高 13,319百万円
前年同期比 8.9%増

営業利益 1,645百万円
前年同期比 9.5%増

ポイント

- 自動車メーカー系を中心に、価格改定等収益改善が進捗し、増収。業務品質改善に向けた教育、増員によるコスト増を増収により吸収し、増益。

プロパティ 住宅・駐車場関連サービス

売上高 4,011百万円
前年同期比 14.1%増

営業利益 254百万円
前年同期比 12.0%増

ポイント

- ホームアシスト事業における賃貸駆けつけサービスの開始、パークアシスト事業における対応地域及び管理事業地の拡大により、増収増益。

グローバル 海外関連サービス

売上高 4,297百万円
前年同期比 9.1%増

営業利益 552百万円
前年同期比 35.0%増

ポイント

- 米国クレジットカード事業ではカード会員数は増加したにも関わらず、利用額の伸び悩みと為替変動の影響を受けたものの、その他の既存サービスが堅調に成長したため、グローバル事業全体では、増収増益。

カスタマー コンタクトセンターサービス

売上高 3,323百万円
前年同期比 22.7%減

営業利益 296百万円
前年同期比 61.9%減

ポイント

- ワクチン関連業務が前期までにすべて終了したことにより、減収減益。

金融保証 保証関連サービス

売上高 5,061百万円
前年同期比 18.0%増

営業利益 1,138百万円
前年同期比 10.7%増

ポイント

- 家賃債務保証事業にて、新規獲得、契約更新が好調に推移したことに加え、管理・代行業務のみの提供から債務保証を加えた総合サービスへ切り替えが進み、増収増益。

IT IT関連サービス

売上高 420百万円
前年同期比 129.7%増

営業利益 57百万円
前年同期比 166.1%増

ポイント

- サプライチェーンマネジメントシステムの納品が進み、増収増益。

ソーシャル 社会貢献サービス

売上高 335百万円
前年同期比 11.6%増

営業利益 △213百万円
前年同期比 ー

ポイント

- 女子スポーツチーム「アランマーレ」におけるスポンサー収入等により増収となったが、「アランマーレ」戦力強化及び保育事業の拡大に伴う人件費増加に伴い、前年同期比で赤字幅拡大。



- オートモーティブ 43.3%
- プロパティ 13.0%
- グローバル 14.0%
- カスタマー 10.8%
- 金融保証 16.4%
- IT 1.4%
- ソーシャル 1.1%

グループ会社代表取締役 インタビュー



株式会社プレステージ・コアソリューション
代表取締役

中村 干城

変化を機会として
捉えながら、
弛まぬ価値創造に
挑戦してまいります

株式会社プレステージ・コアソリューション（以下:PCS）企業情報

創業 2019年 株式会社プレステージ・インターナショナルが持株会社体制へと移行した際、事業承継会社の一つとして設立しました。	売上高 328億円 (2024年3月期) 2024年3月期の売上高は、プレステージ・インターナショナルグループの連結売上高の過半を占めます。	事業内容 オートモーティブ プロパティ カスタマー ソーシャル	従業員数 3,298名 ※ (2024年3月末日時点) プレステージ・インターナショナルグループ全体の約6割の従業員が、PCSに従事しています。 ※ 株式会社プレステージ・インターナショナルからの出向者を含む。	PCS 企業サイト https://www.prestigein.com/pcs/
---	---	--	---	---

Q PCSはプレステージ・インターナショナルグループ（以下:PIグループ）においてどのような位置づけですか？

PIグループ全体の売上高の過半を占める規模の事業会社です。オートモーティブ事業やプロパティ事業などの国内事業を担い、BPO拠点のオペレーション業務の多くはPCSで対応していることから、名前のとおりPIグループのコア（中核）と言えます。PCS単体で機能するというよりも、様々なグループ会社と繋がってPIグループの価値を拡大する成長の源泉だと思っています。

PIグループが大切にしてきた「人でしかできないサービス」の提供、ただのコールセンターではない付加価値の提供を、大きく支えるポジションでもあると思います。

Q では、PCSの代表に就任してまず何から始めましたか？

現職就任前は、グローバル事業を担うグループ会社の株式会社プレステージ・グローバルソリューション（以下:PGS）に在籍していました。先述のとおり、PCSはPIグループのコア（中核）ですので、グローバル事業のみならず、国内事業全体についても知っておく必要がありました。

そこで、最初に各BPO拠点を訪問し、業務部長や

グループ長等、オペレーション部門の責任者60名以上と、それぞれ直接話をするところから始めました。誰が何を担っていて、どんな課題を抱えているのかを把握し、理解を深める良い機会となりました。

Q 今まで携わってきたPGSと新たに代表に就任したPCSで、シナジーを生み出せると感じる部分はありますか？

ビジネス面での連携により、新たなサービスを生み出せると考えます。PGSでは駐在員向けの医療サービスを提供していますが、駐在員が海外赴任する前後、例えば日本国内を長期不在にする際の、自動車や住宅等に関する国内でのサポートは提供していません。PCSのノウハウと組み合わせることで、医療サービスという範囲を超えて、駐在員とご家族を全面的にサポートするようなサービスを構築し、さらなる価値を生み出せると考えています。

また、昨今、労働力不足による課題が懸念されますが、リソース面においても連携ができると期待しています。海外のネットワークを活用し、国内のBPO拠点で行っている業務の海外移管を視野に入れていきたいと考えています。そのために、まずはBPO拠点で提供することによって「価値が高まる業務」と海外拠点等に移管す

ることで「新たな価値が生まれる業務」といった業務の見極めをしていく必要がありますね。

Q それぞれの事業がクロスすることで生み出される新しい価値に期待が高まりますね。続いて、今年5月に第8次中期経営計画が発表されましたが、目標達成に向け、PCSではどのような取り組みを進めていきますか？

先述のとおりPCSが一番大きな事業会社ですから、業務プロセスの改善や生産性向上等の経営課題解決に向けて率先して取り組んでいくことで、中期経営計画の目標達成に貢献できると考えています。

着任後に各BPO拠点で実施したヒアリングでは、大きく分けて二つの課題が浮き彫りになりました。「人材が活躍できる環境の構築」と「生産性の向上」です。この二点を軸に、社内プロジェクトを発足させ、動き始めています。

一つ目の「人材が活躍できる環境の構築」ですが、経済環境の変化に伴う人材リソース不足が問題視されるなかで、さらに人が集まり、長く働いてくれる環境を作らなければならないと感じました。そこで、報酬と育成、二つの側面からの人的資本投資を掲げ、それぞれに特化したプロジェクトから制度の見直しを図っていきます。

二つ目が「生産性の向上」ですが、ただ生産性を上げるだけでなく、PIグループが大切にしてきた付加価値も提供し続けることが必要と考えます。具体的に必要になってくるのが、人材リソースの適切配置による収益改善と業務プロセスの改善、それからBPO拠点戦略です。今後の成長においては、従来注力していた地方での大型BPO拠点

展開に加えて、サテライト拠点や海外拠点を戦略的に活用することが必要と考えます。こちらもそれぞれをプロジェクト化して改善に取り組んでいきます。

Q 今後PIグループが取り組んでいく課題や成長の道筋について、PCSの代表取締役という立場でのビジョンや率直な感想を教えてください。

今後取り組んでいく課題としては、全く新しい課題を発見するというよりは、今までそれぞれのチームや従業員一人ひとりが感じていて、誰かが取り組まなければならなかった課題を取りまとめて一つずつ整理していくということをイメージしています。

そのためには、従業員一人ひとりが、PIグループは何をやる会社で、どこに向かっていくのかを改めて考え、自分たちにしかできないことを見極めること、そして何が事業成長に繋がるのか認識できるような環境を作り、強みを磨くことが必要と考えています。

Q 最後に、これからPCSはどんな会社でありたいですか？

会社の成長の軸となって、価値提供を絶やさない存在でありたいです。そのためには変化も必要だと思っています。事業をさらにブラッシュアップしていくため、先陣を切って手段を講じていきます。また、PCSは提供しているサービスの領域も幅広いので、より人々の生活に寄り添える範囲を広げ、時代の変化に合わせてサービスも変化していく会社でありたいと考えています。

従業員に対しては、日々の業務やプロジェクトを通じた活躍の場を増やし、成長実感を持ってもらえる環境づくりを行っていきます。従業員が成長して、事業も成長する、という形を目指します。

今後も時代とともに新たな付加価値を生み出し、成長を続ける会社を目指してまいります。



SUSTAINABILITY

サステナビリティ

サステナビリティ方針（一部抜粋）

当社グループは、創業当初からの「エンドユーザー（消費者）のお困りごとを解決する」というコンセプトを大切に、社会や地域と共に繁栄できる企業を目指しています。

これらを実現するために当社グループは、適正な企業統治のもと、社会から信頼される企業として、多様なサービスを通じた持続可能な社会の実現に取り組んでいます。

健康経営

健康経営推進のアドバイザーに就任した関根浩です。

当社グループでは、従業員の健康を企業の成長に不可欠な要素と捉え、これまで、各BPO拠点やスポーツチーム、企業内保育園が、カフェテリアを活用したイベント・健康メニューの提供や学生向けの食育活動・スポーツ教室（クリニック）などの多様な取り組みを行い、健康経営を推進してまいりました。

現状と課題

全体としての定量データの収集や効果測定が不足しており、PDCAサイクルを活用した体制的なプロジェクト運営が課題となっております。これを解決するために、3カ年計画として、新たなKPI及び戦略マップを策定し、その上で具体的な施策を実行していきけるように整備を進めてまいります。

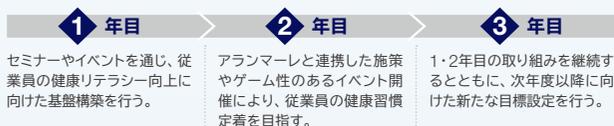
健康経営の取り組みを通じて従業員とその家族の健康維持と、安心して働ける環境の構築を目指し、働きがいの向上と企業としての持続的成長を実現してまいります。



関根 浩

株式会社プレステージ・インターナショナル
常任顧問

今後のロードマップ



ダイバーシティ推進

この度、新たにダイバーシティ推進プロジェクト担当として就任いたしました佐藤春奈と申します。前3カ年は、女性管理職比率50%目標を掲げて管理職登用制度や人事制度の整備に取り組み、女性管理職比率は2024年3月末時点で40.9%に達しました。目標の50%達成に向けて大きな進捗が見られたとともに、女性部長職の比率も向上するなど、着実に取り組み、成果として表れております。

現状と課題

昨年実施したミドルマネジメント層の女性従業員368名との面談では、マネジメント層へのキャリアアップだけでなく、多様な働き方やキャリア形成の実現を求める意見も上がりました。また、育児や家事、介護などの負担が依然として女性に偏っている実態もあり、ジェンダーギャップやアンコンシャス・バイアスの解消、管理職以外の役割でも活躍できる支援体制の必要性を強く認識いたしました。

今後の取り組み

今後の3カ年においては、女性活躍推進にとどまらず、多様なキャリアパスや働き方を支援する包括的な戦略を推進してまいります。

1

アンコンシャス・バイアスを解消するための全従業員向けの意識改革プログラム、リーダーシップ研修の実施。

2

ミドルマネジメント層に対するメンタリングやサポート体制の強化。

3

柔軟で多様な働き方を実現できる制度の整備。

性別、年齢、国籍、障がいの有無に関わらず、個々の価値観や個性、背景を尊重し、従業員それぞれが安心していきいきと働ける環境を整えることで、組織全体の力を引き出し、持続性のある成長を目指します。



佐藤 春奈

株式会社プレステージ・インターナショナル
取締役

環境



2024年6月に開設した岩手BPOフォートレスに導入した太陽光発電のオンサイトPPAを皮切りに、BPO拠点に対して「24/7カーボンフリー電力」を段階的に導入しBPO拠点のゼロエミッション化を進めてまいります。



ご挨拶
新任取締役紹介



業績ハイライト
セグメント概況



グループ会社代表取締役
インタビュー



サステナビリティ



岩手BPOフォートレス



会社概要

岩手BPOフォートレス

稼働開始

「岩手BPOフォートレス」は、当社グループが太平洋側に初めて開設した国内BPO拠点で、2021年4月から「岩手BPO一関ランチ」として100席規模の仮センターで稼働していました。新幹線や高速道路の利用により周辺地域からのアクセスも良く、多様な人材確保に期待し進出いたしました。今期中に200名規模の雇用を見込んでいます。

岩手BPOフォートレス

https://www.prestigein.com/company_profile/iwate_ichinoseki.html



岩手BPOフォートレスのご紹介

執務や打ち合わせ、休息など、従業員が時を過ごす空間は、それぞれ多面体である石のような個性的な形状となっております。四方八方から光が取り込めるように配置した窓を通じて時とともに表情を変える自然の移り変わりを感じることができます。



外観 | 建築コンセプト VALLY

一関市にある巖美溪の景色を造り上げる個性豊かな巨石から「人々の多様性」を、美しい溪流から「人々の交流」をインスパイアしました。

VOICE



拠点長
高橋 満

2024年6月に誕生した「岩手BPOフォートレス」は、一関市の名勝、巖美溪をモチーフとした非常にユニークなデザインが自慢です。秋田県内等の他BPO拠点からのアクセスも良く、BCP※の観点からも好立地であることも特徴です。

また、太陽光パネルを配したカーポート設置などのサステナブルな取り組みや、カフェテリアの一般開放を行っており、環境に優しく、地域に根差した拠点を目指し成長してまいります。

※BCP…災害など有事の際、最小限の影響で業務を運営するための事業継続計画

「岩手BPOフォートレス」には中庭やリラックスエリア等リフレッシュできる環境が豊富にあります。またカフェテリアでは温かいランチが堪能でき、同僚と一緒に利用するだけではなく1人でも気軽に使いやすい雰囲気も魅力的です。

私の一番好きな場所はオペレーションルームです。明るく開放感があり、ダウンライトからの優しい光に癒されとても気に入っています。素敵な環境で快適に仕事ができることが日々のモチベーションアップに繋がっています。

オートモーティブ事業
スーパーバイザー
S・C
2022年
入社



『巖美溪』とは？

モチーフとなった名勝 巖美溪は、栗駒山から一関市へと流れる磐井川の浸食により形成された渓谷で、国の天然記念物にも指定されています。ダイナミックな景観と、四季折々の自然が広がる観光スポットです。



オペレーションルーム



リラックスエリア



リラックスエリア



ソーラーカーポート



中庭



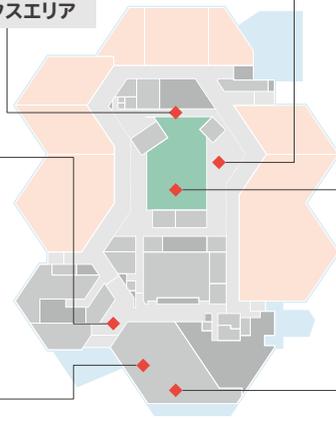
エントランス



カフェテリア



カフェテリア



館内レイアウト

会社概要 (2024年9月30日現在)

会社名	株式会社プレステージ・インターナショナル Prestige International Inc.
設立	1986年10月
資本金	16億01百万円
本社所在地	〒102-0083 東京都千代田区麹町二丁目4番地1
事業内容	ビジネス・プロセス・アウトソーシング
従業員数	5,231名(連結)
拠点	世界18カ国30拠点
URL	https://www.prestigein.com/

会社役員 (2024年9月30日現在)

代表取締役	玉上 進一	監査役	杉山 將
取締役	中村 干城	監査役	吉田 範夫
取締役	佐藤 春奈	監査役(社外)	原 勝彦
取締役(社外)	関 敏昭	監査役(社外)	小野 傑
取締役(社外)	高木 いづみ		
取締役(社外)	小枝 雅与		

株主メモ

事業年度	4月1日から 翌年3月31日まで	証券会社の 口座の場合	特別口座の 場合
定時株主総会	毎年6月	郵便物 送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
上記基準日	3月31日 ※その他臨時に必要がある場合には、 あらかじめ公告いたします。	お取引の 証券会社に なります。	0120-288-324 (フリーダイヤル)
権利確定日	期末配当 3月31日 中間配当 9月30日	お取り扱い店	みずほ信託銀行株式会社 本店及び全国各支店

株主名簿管理人 みずほ信託銀行株式会社
※諸手続きに関しましては、みずほ信託銀行株式会社のwebサイトをご参照の上、
行っていただきますようお願いいたします。

同連絡先 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
0120-288-324 (フリーダイヤル)
(ご利用時間 9:00~17:00 土・日・祝日・銀行休業日を除く)

公告掲載方法 電子公告

単元未満株式の買取については当社webサイトをご覧ください。
https://www.prestigein.com/IR/stock/procedure.html



株式の状況 (2024年9月30日現在)

発行可能株式総数 427,008,000株 株主総数 4,098名
発行済株式総数 128,676,300株

大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社タマガミインターナショナル	35,561,400	27.64 (27.88)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	18,294,400	14.22 (14.34)
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	6,953,657	5.40 (5.45)
GOLDMAN, SACHS & CO. REG	5,468,286	4.25 (4.29)
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE FIDELITY FUNDS	4,704,500	3.66 (3.69)
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE UKUC UCITS CLIENTS NON LENDING 10PCT TREATY ACCOUNT	3,889,400	3.02 (3.05)
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	2,946,827	2.29 (2.31)
野村信託銀行株式会社(投信口)	2,702,500	2.10 (2.12)
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO)	2,536,237	1.97 (1.99)
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	2,120,824	1.65 (1.66)

※()内の数値は発行済株式(自己株式を除く)の総数に対する所有株式数の割合

所有者別株式分布状況 (2024年9月30日現在)



■ 金融機関	29,291,657株 (22.76%)
■ 金融商品取引業者	926,653株 (0.72%)
■ その他国内法人	38,110,900株 (29.62%)
■ 外国法人等	48,808,060株 (37.93%)
■ 個人・その他	10,396,207株 (8.08%)
■ 自己株式	1,142,823株 (0.89%)

ご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなります。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(みずほ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、みずほ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、みずほ信託銀行にお問い合わせください。
- 未受領の配当金につきましては、みずほ信託銀行でお支払いいたします。

株主の皆さまの
声をお聞かせください

コエキク



当社では、
株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、
アンケートを実施いたします。
お手数ではございますが、
アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、
アクセスキー入力後に
表示されるアンケートサイトにてご回答ください。

<https://koekiku.jp>

アクセスキー 4290HLLI

ご回答いただいた方の中から
抽選で薄謝を進呈させていただきます。

本アンケートは、株式会社プロネクサスの提供する
「コエキク」サービスにより実施いたします。

アンケートのお問い合わせ「コエキク事務局」
✉ koekiku@pronexus.co.jp